

万博公園探鳥会

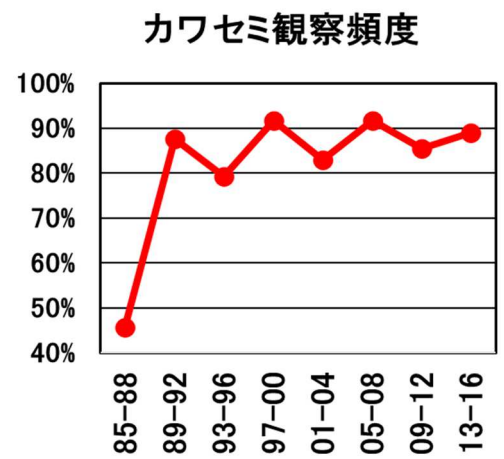
2025 年 11 月 8 日(土)

リーダー 田中宏・中筋好子・橋本昌宗・大矢麻由美
玉置こるり・平軍二(090-6901-1425)

I 万博公園の鳥第5回「カワセミ」

漢字名 翡翠 学名 *Alcedo atthis*

英名 Common Kingfisher



コバルト色の上面と橙色の下面、光線によって青にも緑にも輝くことから、「水辺の宝石」と讃えられる美しい小鳥。水面上を猛スピードで直線的に飛ぶとき、飛んだ先を見つける楽しみもあり、探鳥会での人気ナンバーワンの鳥。これまでカワセミが出れば探鳥会がいつ終わりになっても良いと言ってきた。

観察頻度(上右図)からわかるように、万博公園探鳥会をスタートした 40 年前は、カワセミ観察が少なかったが、90 年代からは観察頻度がほぼ 90%前後で推移している。100%にならなかったのは万博公園内に繁殖個所が無かったことで、繁殖期(夏季)はいなくなるためで、それ以外の季節、秋～春にはほぼ毎月の探鳥会で観察している。

万博公園のカワセミによるトピックスは、JR 西日本による 500 系新幹線開発に寄与したことである。万博公園探鳥会に参加されていた矢島誠一氏は、純国産旅客機として有名な「YS-11」設計陣のお一人であった方、1990 年大阪支部室内例会で「鳥の飛行について」ご講演された。その時参加された日本野鳥の会会員で、JR 西日本新幹線開発責任者の仲津英治氏が、新幹線開発時のネックであった「騒音」に対し質問され、矢島氏の答えを聞いて新幹線開発チームにスカウトされた。この新幹線開発期間中には、仲津氏・矢島氏をはじめとする開発チームの方が、万博公園探鳥会に参加され、鳥を楽しむと同時に鳥を知る機会を作られていた。

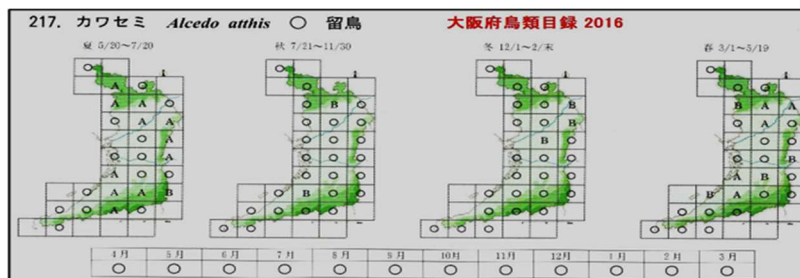
時速 300 km/h を目指していた 500 系新幹線は、「先頭車両はカワセミの嘴」を、「パンタグラフはフクロウの風切羽」を模して、スピードアップによる騒音対策を回避する技術確立し、1997 年に完成した。そんなこともあり、私(平)は「500 系新幹線は万博公園探鳥会から」と説明してきた。

これからも万博公園探鳥会で参加者から「あっ、カワセミ」という喜びを聞きたいと思っている。

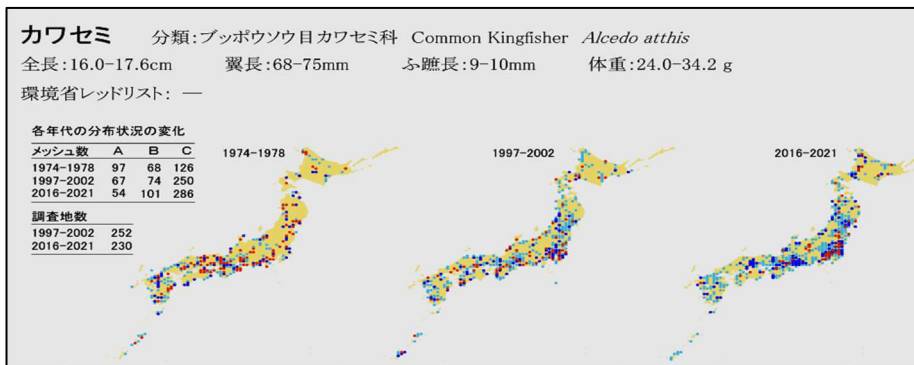
I ②大阪府のカワセミ

(大阪府鳥類目録 2016)

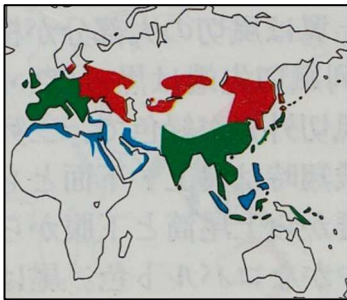
右図より大阪府内のほぼ全域で繁殖しており、留鳥として一年中観察される。



I ③ 全国鳥類繁殖分布調査(鳥類繁殖分布調査会 2021)



全国で留鳥として繁殖し、北海道では夏鳥。河川や湖沼などの土手に穴を掘って繁殖する。1970年代から1990年代にかけて分布が拡大し、都市部では公園などでも見られるようになったが、その後、2010年代にかけては分布に大きな変化は見られていない。1970年代からの分布の拡大は、水質が良くなったことに伴う小魚の増加と考えられている。



← I ④世界の繁殖越冬分図 真木広造・大西敏一

日本の鳥 590 平凡社(2000年)

繁殖地は日本～サハリン、中国東北部～欧州の中緯度、東南アジア～インドなどに留鳥として広く分布している。

II 先月 2025 年 10 月探鳥会

スタート地点で先月に続いて太陽の塔にいるチョウゲンボウを見たが、カラスに追われすぐ飛んだ。世界の森ではイカル、ラクウショウの木に天辺で良く鳴いてくれたので、全員でゆっくり観察できた。秋の渡り鳥のコサメビタキは3羽のみと少なかった。メボソムシクイを1羽確認したが、声がせず先月に続き種特定ができず、メボソムシクイ上種とした。終了後、水すましの池に大型のカモ、よく見るとハシビロガモであった。万博公園でハシビロガモを見ることは少なく、これまで40年間で3回目(94年12月、19年1月、そして今回)の記録となった。

写真 ハシビロガモのみ平軍二、他5枚 橋本昌宗氏(20251011)



III 次回 12 月 13 日万博公園

冬鳥がそろって待っている季節。今日と同じように、大阪支部 HP のホームズ様式からお申込みください。申し込み様式が厳しい方は、平宛,0501,hi@gmail.com で。

平が鳥を見始めた昭和55年(1980年)頃、カワセミが増え始めている時期でした。
その頃の文献から、大阪府でカワセミが増え始めていた状況を紹介します。

カワセミ — ブッボウソウ目カワセミ科 —

印象深い色彩美

昭和五〇年頃、私が鳥を見始めた頃には、まさか今のようなバードウォッチングブームが来るとは思わなかった。出版物も数点しかなかったし、マスコミも年に一度、五月の愛鳥週間に記事載せていどの扱いだった。

ところが、五四年あたりから新しいアウトドアレジャーとしてバードウォッチングが見直されると共に、出版物も増え、今まで無縁と思われていた企業も、広告に積極的にバードウォッチングを取り上げるようになった。その時にバードウォッチング、あるいは野鳥のシンボルとしてよく使われたのがカワセミだった。

例えば、日本野鳥の会のサンクチュアリー(野鳥の聖域)建設のシンボルはこの鳥であるし、ある電器メーカーのキャンペーンマークもこの鳥だった。

たしかに、カワセミは印象深い鳥である。スズメくらいの大きさで、ずんぐりした体に比して長いくちばしを持つ。胸・腹はオレンジ色、頭と羽は青緑色、背は美しく輝くコバルト。平野部及び低山地の河川・池に住み、水中にダイビングして魚を捕る。巣は土の崖に深い穴を

掘って作り四〜七個の卵を産む。

生態も興味深い、色彩の美しさはより強い印象を与える。特に「ツイー」と鳴いて水面を低く横切っていく時には、背中のコバルトが輝いて、まるで青い火花が飛んでいくように目にやきつく。

しかし、カワセミが野鳥のシンボルとして選ばれた理由は、美しいからだけではない。自然破壊に追われる野生動物の代表という意味も、こめられているのだ。

かつて、カワセミはありふれた鳥であった。平野部の小川や池という彼らの棲家はどこにでもあったから、彼らが多かったのも当然だ。

農薬使用で打撃

しかし、三〇年代頃の農薬使用は彼らに大打撃を与えたようだ。カワセミは追いつめられ、一時は大阪ではもう見られないのではないかとすら言われた。なにしろ、私の友人でわざわざ亀岡までカワセミを見に行った人もいるくらいなのだ。

昭和五四年、私はカワセミの分布を調べるために府下の池や川を尋ね歩いた。最初は見られるかどうか全く不安だったが、一度お目にかかる、おもしろいくらい次から次へとカワセミに会うことができた。

75

74

カワセミ



スズメのように小さいが、長いくちばしを持つ。胸・腹はオレンジ色、頭と羽は青緑色、背は美しく輝くコバルト。水面を低く横切っていくときに、背中のコバルトが輝いて「青い火花」が飛んでいくようだ。

(藤田 雅彦氏 撮影)

南大阪のニュータウンの谷間を流れる川は白いコンクリートでびっしり護岸されているが、ここにもカワセミはいた。側を通るダンプがまきあげる砂ぼこりをかぶりながら、護岸の上のカワセミは不安気に首をびよこびよこ動かしていた。

現在、このちっぽけな鳥の棲家を守る法律は何もない。

(本多 俊之)

河川はもちろんのこと、山間のさびしい貯水池の水面を裂くように飛んでいく姿を見たこともあれば、堺の大学構内で見たこともあるし、京都の街のどまん中で出くわしてびっくりしたこともある。非繁殖期には、なんと安治川や大和川の河口にも来たという報告も受けた。しかし、地図の上に記入したカワセミの分布状況は必ずしも楽観的な結果を示してくれはしなかった。

平野部の開発も

繁殖期に河川を棲家を選ぶカワセミは、ほとんどが山地と平野部の境目あたりにしか分布せず、広大な大阪平野内に分布するものは少ない。たしかに、農薬による危機は遠のいたかもしれない。しかし一方で進められた平野部の開発もカワセミの生活環境を奪っていたのである。

特に、巣穴を掘れるような土の崖が不足してきているのではないかと思う。カワセミの分布を調べた時に同時に集めた巣穴のデータでは、水面から遠くはなれた林道の切り通しの崖に穴を掘った例まであった。

大和川の河口のような所にまで現れるということからもわかるように、餌場についてはかなり柔軟性があるが、一方で巣穴にふさわしい崖の選定についてはかなりデリケートなところを見せる鳥でもあるのだ。

76

V 万博公園探鳥会 観察種チェックリスト (第8版ベース)

万博 NO	第8 版	種名	2024				2025				第8 版
			9 14	10 12	11 9	12 14	9 13	10 11	11 8	12 13	
1	21	オシドリ									21
2	23	トモエガモ									23
3	27	オカヨシガモ				27					27
4	28	ヨシガモ									28
5	29	ヒドリガモ									29
6	32	カルガモ	8	4	4	28	6	13			32
7	33	マガモ									33
8	34	オナガガモ									34
9	35	コガモ									35
10	39	ホシハジロ									39
11	43	キンクロハジロ				1					43
12	56	ミコアイサ									56
13	69	アマツバメ									69
14	82	ツツドリ									82
15	89	キジバト	5	3	3	6	3	5			89
16	93	アオバト									93
17	96	クイナ									96
18	100	バン					1				100
19	101	オオバン			1	5					101
20	117	カイツブリ	4	6	8	3	11	8			117
21	119	カンムリカイツブリ									119
22	128	ケリ									128
23	134	イカルチドリ									134
24	135	コチドリ									135
25	163	トウネン	3								163
26	183	タシギ									183
27	188	イソシギ									188
28	213	ユリカモメ									213
29	315	カワウ	3	2	1		3	3			315
30	328	ゴイサギ									328
31	333	アオサギ	2	1	1	1		1			333
32	335	ダイサギ					1				335
33	337	コサギ									337
34	343	ミサゴ				1					343
35	344	ハチクマ									344
36	352	ツミ									352
37	353	ハイタカ				3					353
38	354	オオタカ									354
39	359	トビ		2		1		1			359
40	363	サシバ									363
41	366	ノスリ		7		1					366
42	384	カワセミ	2	1	4	6	1	1			384
43	389	アリスイ									389
44	390	コゲラ	3	6	3	4	6	5			390
45	402	チョウゲンボウ		1			1	1			402
46	407	ハヤブサ									407
47	411	サンショウクイ									411
48	412	リュウキュウサンショウクイ									412
49	419	サンコウチョウ									419
50	425	モズ		6	3	1		7			425
51	435	ハシボソガラス	39	2	9	21	23	12			435
52	436	ハシブトガラス	41	34	57	54	18	42			436
53	439	ヒレンジャク									439
54	442	ヤマガラ	14	2	8	3	5	5			442
55	447	シジュウカラ	29	6	12	14	13	13			447

万博 NO	第8 版	種名	2024				2025				第8 版
			9 14	10 12	11 9	12 14	9 13	10 11	11 8	12 13	
56	456	ヒヨドリ	28	59	87	98	9	33			456
57	461	ツバメ	3	3			3				461
58	462	イフツバメ									462
59	463	コシアカツバメ					4				463
60	464	ウグイス	1		3	3		1			464
61	466	ヤブサメ									466
62	467	エナガ		15	18	11	15	25			467
63	476	センダイムシクイ		1							476
64	479	エゾムシクイ									479
65	481	メボソムシクイ									481
66	482	オオムシクイ		2							482
67	484	オオヨシキリ									484
68	501	メジロ	22	45	16	8	18	6			501
69	507	ムクドリ	68	1		14	285	43			507
70	509	コムクドリ									509
71	514	トラツグミ									514
72	526	シロハラ			2	3					526
73	527	アカハラ			1						527
74	531	ツグミ				25					531
75	532	ハチジョウツグミ									532
76	533	エゾビタキ		10							533
77	537	コサメビタキ	11	2			4	3			537
78	539	オオルリ		1							539
79	545	コマドリ									545
80	550	キビタキ	2								550
81	556	ルリビタキ									556
82	561	ジョウビタキ			11	8					561
83	564	イソヒヨドリ	1	1		2	3				564
84	568	ノビタキ		4							568
85	574	ニュウナイスズメ									574
86	575	スズメ	77	28	57	28	118	34			575
87	584	キセキレイ	1	2	1		1	2			584
88	585	ハクセキレイ	20	22	17	21	31	37			585
89	586	セグロセキレイ	2	1	1	1	2	1			586
90	591	ビンズイ									591
91	595	タヒバリ									595
92	597	アトリ				5					597
93	598	シメ									598
94	600	イカル			4		4				600
95	608	カワラヒワ	4	2	1	19	99	6			608
96	618	ホオジロ									618
97	625	カシラダカ									625
98	633	アオジ			3	2					633
99	11	ドバト	○	○	○	○	○	○			11
100	25	ソウシチョウ				1					25
		カッコウSP									
		ムシクイSP					1	1			
		タカSP									
101	23	ハシビロガモ					1				23
種類数(種)			26	33	28	35	28	29			
個体数(羽)			393	287	336	429	685	314			
天候			晴	晴	晴	曇	晴	曇			
参加者数(人)			18	27	33	27	18	26			

IV「僕には鳥の言葉がわかる」鈴木俊貴(東京大学先端科学技術研究センター准教授)

シジュウカラの言葉の研究者として何度もお聞きしていた鈴木俊貴博士が、テレビ朝日の「徹子の部屋」に10/17 出演された。

これまで研究から、鳥の鳴き声は言葉であったことを発見し、言葉を組み合わせた文章を作っていることを知り、人間以外の動物は言葉を持たないとされていた常識を一変させることになった。

2023 年には鳥類だけでなく、哺乳動物など様々な動物の言語を探求する「動物言語学」という新たな学問分野を立ち上げられた。



(徹子の部屋の画面集)

鈴木俊貴博士への質問 (WIRED Innovation Award2025 受賞者インタビュー: Edited by Daisuke Takimoto)
インターネットにあった報告内容から抜粋・・・「徹子の部屋」での説明内容に類似)

- ・鳥研究は大学生の頃から軽井沢が定点にしており、今も(半年～10 か月)/年滞在する。
- ・同じ場所であれば、天敵動物(ハシブトガラス・アオダショウ・モズ・オオタカなど)が同じなので、繰り返し観察することで、シジュウカラ語を研究することができた。しかも発見したシジュウカラの言語や文章が正しいかどうか、証明する方法も発明する必要があった。
- ・2008 年「ジャージャー」の声から、「蛇への警戒音」との結論まで 10 年かかっている。
- ・巣箱に餌を運んできた雄・雌が鉢合わせると、雌が翼をパタパタさせることで、雄が先に巣箱に入る(徹子の部屋画面集の最下段右)。言葉だけでなく、ジェスチャーもすることがわかった。
- ・人間以外には「チンパンジーなど高等動物しかジェスチャーをしない」、という定説を覆した。
- ・子供の頃、小さい虫など生き物が好きだったことから、両親は家族全員で茨城に引っ越した。父はそのため東京丸の内まで、2 時間半かけて通勤してくれた。
- ・カブトムシがコガネグモの巣に引っかかって、食べられるのを見たことがあった。図鑑に「カブトムシは最強だから、どんな虫にも負けない」とあり母親に言ったら、「図鑑に『コガネグモには負ける』と書き加えたら」と言われた。それからは気づいたことを図鑑に書き加えることにした。
- ・「野鳥観察」を趣味にされる人が多いのは、哺乳類よりも鳥類が観察しやすいためである。哺乳類は夜行性で自然環境での観察が難しいことが多いし、昆虫は昼行性で種類も多く捕まえやすいが、捕まえたならあまり観察せず、コレクターが標本とすることが多いと思われる。
- ・鳥は鳥獣保護法で捕獲が禁止されていて見ることにしかできないので、観察する楽しみがある。
- ・鳥と人間には多くの共通点がある。目と耳で世界を認識しており、声でコミュニケーションをとっている。シジュウカラも一夫一妻で、2 本の足で立ち、ジェスチャーもします。
- ・最初に「動物言語学」という新しい学問を提唱したのは 2022 年夏、ストックホルムの国際学会家でした。講演の最初に「動物は言葉を持たないと思われるかもしれないが、違んです」といったら、「いったい何を・・・」と微妙な空気が流れました。ところがアイディアの証明や研究の手法を紹介すると、講演後には壇上に研究者の列ができ、「あなたは人間と動物を二分した西洋の考えを覆した」と賞賛してくれた。